

平成二十八年十二月三日(木)実施

平成二十九年 金沢学院大学 入学試験問題 (推薦入試)

# 国語 (基礎学力)

(注意事項)

解答用紙に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから8ページまであります。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用するのには法律で禁じられています。

(解答上の注意)

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

10
----

と表示のある問いに対して

④と解答する時は、下記の(例)のように解答番号10の解答欄の④にマークしてください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩



問題は、次のページからです。

問1 次の(1)～(5)の傍線部の漢字表記として最も適当なものを、それぞれの語群①～⑤の中から一つずつ選べ。

解答番号は 1 ～ 5

(1) 作者フシヨウの小説。

- ① 不肖 ② 不詳 ③ 不承 ④ 不祥 ⑤ 不省

(2) 床下に泥がシニニューする。

- ① 浸入 ② 進入 ③ 侵入 ④ 新入 ⑤ 伸入

(3) キセイ事実

- ① 寄生 ② 規正 ③ 既製 ④ 既成 ⑤ 規制

(4) シユウシユウが見つからない。

- ① 収集 ② 収終 ③ 收拾 ④ 收衆 ⑤ 收習

(5) 予約内容をシヨウカイする。

- ① 正会 ② 哨戒 ③ 詳解 ④ 紹介 ⑤ 照会

問2 次の(6)～(10)のカタカナ語の意味として最も適当なものを、後の語群①～⑥の中から一つずつ選べ。

解答番号は 6 ～ 10

(6) ケーススタディー (7) コンソーシアム (8) コモンセンス (9) トピック (10) リテラシー

語群

- ① 情報や知識の活用能力 ② 博物館 ③ 事例研究  
④ 話題 ⑤ 常識 ⑥ 共同事業体

問3 次の11～20に入れるのに最も適当な語を、後の語群①～④の中から一つずつ選べ。なお、選択肢は何度使ってもよい。

解答番号は 11～20

- (11) 今、ご自宅にいらっしゃいますね？ 大至急そちらへ 11。
- (12) はじめまして。山田太郎と 12。
- (13) 今日から一週間ほど、京都へ旅行に 13。
- (14) ご乗車のお客様へ、車掌からお願いを 14。
- (15) ご心配いただき、ありがとうございます。そのように父に 15。
- (16) ちよつと 16 が、このあたりに薬局はありませんか？
- (17) 末筆ながら、ご家族のますますのご多幸をお祈り 17。
- (18) 今から弟の家に 18。
- (19) 大変お待たせしました。ご注文を 19。
- (20) 今から金沢駅に 20 ので、松任駅に着くのはだいたい、1時間後になるかと存じます。

語群

- ① 申し上げます      ② 申します      ③ 参ります      ④ うかがいます

問4 次の〔21〕と〔25〕に入れるのに最も適当な語を、後の語群①～⑩の中から一つずつ選べ。解答番号は〔21〕と〔25〕

(21) 〔21〕の知らせ。

(22) 閑古〔22〕が鳴く。

(23) 生き〔23〕の目を抜く。

(24) 〔24〕の這はい出る隙もない。

(25) 張り子の〔25〕。

語群 ① 鶏 ② 蟻 ③ 蝶 ④ 虫 ⑤ 牛 ⑥ 虎 ⑦ 馬 ⑧ 魚 ⑨ 鳥 ⑩ 羊

問5 次の(26)と(30)の「○」の中に入る漢数字を、後の語群①～⑩の中から一つずつ選べ。解答番号は〔26〕と〔30〕

(26) ○面楚歌 (27) ○律背反 (28) 岡目○目 (29) ○里霧中 (30) ○衣帶水

語群 ① 一 ② 二 ③ 三 ④ 四 ⑤ 五 ⑥ 六 ⑦ 七 ⑧ 八 ⑨ 九 ⑩ 十

問6 次の(31)と(35)はいずれも有名な俳句である。空欄に入る語をそれぞれの語群①～⑤の中から一つずつ選べ。

解答番号は〔31〕と〔35〕

(31) 〔31〕や月は東に日は西に 与謝蕪村

語群 ① 撫子なでしこ ② 山梔子くちなし ③ 稻刈り ④ 菜の花 ⑤ 向日葵ひまわり

(32) 32 や兵どもが夢の跡 松尾芭蕉

語群 ① 干し柿 ② 夏草 ③ すすき野 ④ 螢火 ⑤ 陽炎かまのい

(33) 33 一輪一輪ほどのあたたかさ 服部嵐雪

語群 ① 桃 ② 薔薇ばら ③ 花 ④ 梅 ⑤ 藤

(34) 我と来て遊べや親のない 34 小林一茶

語群 ① 燕 ② 子猫 ③ 雀 ④ 蛙かわず ⑤ 童わらわ

(35) 降る 35 や明治は遠くなりけり 中村草田男

語群 ① 雨 ② 雪 ③ 霜 ④ 星 ⑤ 露

## 問7 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

現代の日本ではややインフレ気味に広い範囲で、そして、あえて元の意味をずらした形で「かわいい」という語が用いられつつあるが、このようなインフレが起きる際には興味深い現象が伴っている。「かわいい」はもちろん対象の「かわいさ」を指し示す形容詞のだが、それに加え、この言葉が一種の態度表明としても使われるということである。

たとえば男性同士の会話で「あの子、かわいかつたな」「うん。たしかに」といったふうには、ある程度描写的に判断を加味して「かわいい」が使われることがある。この場合の「かわいい」の対象は幼い者というよりは、おそらく女性だろう。その女性についてのある種の意見表明がこの会話では行われている。

これに対し、赤ん坊や子犬を見て女性が「あらあ、かわいいわねえ」と、思わず言葉を発したとする。ここではかなり異なったニュアンスがこめられている。「あらあ、かわいいわねえ」の方は描写ではないし、「かわいい／かわいくない」との尺度に基づいた判断が示されているわけでもない。赤ん坊がどんなふうにも「かわいい」かを誰かに伝えようとするものでもない。

では、「あらあ、かわいいわねえ」という発言では何が起きているのか。おそらくそこで行われているのは、まずは「かわいい」ものに対する反応として生じた、どうしようもないほど昂揚した気持ちの発散と、さらには自分の態度の積極的な表現ではないだろうか。つまり、ここでは「かわいい」ものがどのような「かわいい」のかよりも、「かわいい」ものによってかきたてられた自らの慈愛の気持ちそのものに焦点があたっている。「自分がかわいいと思ったのだ！」ということが主たる話題なのである。対象についての伝達や記録、分析、判断といった要素は少なく、そのかわりに発言者自身がどのように感じたかが、「自然な気持ちの発露」という形で示されている。その結果として、発言者がどのような人間であるかも表現されることになる。そこには「私は幼いものにきわめて好意的に反応する人間なのです」というようなメッセージも読み取れるからである。

ここにあるのは、昔ながらの花鳥風月への反応とも似通った振る舞いではないかと思う。かつて花鳥風月を愛でることは一種の様式であり、視線の洗練や精神の高さを証するものだった。幼いものへの対応も現代社会においては、花鳥風月と似た役割を持つ。赤ん坊や子犬に庇護者の眼差しを向け、思わず興奮したり、好意を持つたりするのは——もちろんそこに「自然な愛情の発露」があることとは矛盾しない形で——ある種の社会的なスタンスの表明として機能している。人々が公の場で赤ん坊や子犬を目にして、「あらあ、かわいいわねえ」と大きな声で叫んだり、近づいて行ってじっと見つめたり、その前にしゃがみこんだりするその背後には、「幼いものに対して、母性本能や博愛精神を持つのは望ましいことである。善いことである」といった社会的な規範がある。だからこそ、こうした行動も許されるのだし、ときにはそのような行動をとることがむしろ望ましいとされる——こうなると「あらあ、かわいいわねえ」は強制されたものとさえなる。



そういうわけで「かわいい」という形容は、とくにそれが幼いものに対して用いられる場合は、社会における作法の一部となっている。しかし、規範や拘束となることで、好意が幼いものに対して抑圧的に働くこともありうる。というのも、幼さがこうした規範的な反応にさらされる中で、規範そのものが一人歩きし、幼さの理解に枠のようなものがはめられる可能性があるからである。

この先、確認していくように、「かわいい」や「キュートな」といった形容の周辺には、これらの様態と近いにもかかわらず、かならずしも重ならない多くの領域を見つけることができる。本来、幼さや、ひいては「かわいさ」には、そうした規格外の要素ともつながる潜在力のようなものがある。しかし、「幼さ」に対する視線が規範的なものになればなるほど、そうした規格外の要素は切り捨てられがちになる。

このあたりの問題をわかりやすく指摘したのは、本田和子『異文化としての子ども』<sup>ますこ</sup>だった。一九八二年に刊行された本書の冒頭部で本田は、幼児二人が赤ん坊を誤って殺してしまった事件をとりあげ、いかにこの事件に対する世間の反応が、「幼さ」をめぐるステレオタイプに基づいたものだったかを示す。事件の報道は、「テレビのまねをした」という子どもの発言や、事件の舞台となったのが過疎地だったことに脚光をあてており、世間もそうした材料を基にした理解へと誘導された。ここで暗黙の前提となっていたのは、子どもというものはテレビなどの暴力シーンにすぐに影響されるものだから、子どもは過疎地の荒廃に否応なく感化されるものだといったことである。何しろ子どもは無垢で素直で、傷つきやすいから……。これに対し、ほんとうにそうなのか？ と本田は問いを立てたわけである。

では、現在はどうか。『異文化としての子ども』の刊行から三〇年以上たった今も——いや、以前にも増して——不可解な事件が起きるたび、ステレオタイプに基づいたわかりやすい解説は出回る。私たちの「理解」は、相変わらず幼さの「規範」に支配されているのだ。

言うまでもなく、このような幼さの理解は大人の思いこみを投影したものにすぎない。本田はそうした大人の規範や理解からできる限り自由になることで、しばしば企画にうまくおさまらずに「意味不明」などとされがちな部分に光をあてようとする。そのためにあえて観念的な用語を避け、「ベとベと」「ぼらぼら」「わくわく」「もじゃもじゃ」「ひらひら」といった身体的な感覚にこだわってみせる。本田はそうやって、大人にとっては意味不明でわけのわからない「異文化」としての子どもの世界とその感受性とを、等身大の視点からとらえようとするのである。

たとえば「ベとベと」は、『どろんどろん』<sup>ぶた</sup>や『どろんどろん』<sup>ハリー</sup>をはじめ、子どもの物語世界に頻出するもので、子どももそれをおおいに楽しんでいいる。そこには反秩序的な要素がある。本田はサルトルを引用しながら、「ベとベと」の持つ「侵犯性」に注目する。

ベとベとしたものの侵犯性に関して、サルトルの次の一文は、興味深く、その経緯をえぐり出して見せる。「粘着性をもったものとは固体と液体との中間的なものである。それは変化の過程を断ち切った横断面に似ている。それは不定形ではあるが液体のような流れ方はしない。それはやわらかく、形を変え易く、圧縮可能である。その表面は滑らかではない。その粘着性は陥穽<sup>かんせい</sup>であり、それはヒルのように吸いつく。つまりそ

これは、『私自身』と『それ』との間の境界線を侵そうとするのである。(中略)「この不定形さと、自己流出の予感が、人を不安に陥れる。自身の輪郭がくずれて自己の安定が脅かされるだけでなく、自己が流れ出して他のものと混じり合うならば、それは、自己の存在が根底からゆるがされることなのだ。『異文化としての子ども』」

サルトルの「粘着性」をめぐるコメントは、後のクリステヴァの「アブジェクション／abjection (おぞましいもの)」など、類似の概念をも思い起こさせる。クリステヴァは「アブジェクション」という語を、主体とも客体ともつかないあいまいな領域を指すのに用い、そうした両義性のもたらす居心地の悪さや、幼児の成長段階で果たすその役割に注目した。中間的なものから生ずる違和感や転覆性は文化人類学の「トリックスター／trickster (いたずらもの)」や、フロイト精神分析では「アンカニー／uncanny (不気味なもの)」といった概念にも含意されており、文化のさまざま局面で問題にされてきた。近年も「男」や「女」といったジェンダーの規範からの逸脱は「クイア／queer (異常なもの)」として頻繁に言及されている。本田もまた秩序と反秩序といった対立を出発点にして、いわゆる大人の文化全般に見られる秩序転覆的な「どっちつかずのもの」への感受性の萌芽を幼児性の中に見て取っているわけである。大人のな秩序に基づいた「理解」を拒む存在としての子どもは、大人によって保護された安全な枠に押しこめられるものではなく、ときには、大人自身の文化に潜む隠れた構造を表沙汰にしうるるのである。

(阿部公彦『幼さという戦略 「かわいい」と成熟の物語作法』朝日選書。一部改変)

【問い】本文の内容に合致するものに①、合致しないものに②をマークせよ。解答番号は 

36
----

45
----

- (36) 現代の男性は「かわいい」という語を、意見を表明するという意味で使っている。
- (37) 現代の女性は「かわいい」を自分の人間性を表現する手段として使っている。
- (38) 幼いものを「かわいい」と表現することは、社会的規範にのっとった、望ましい行為であると考えられている。
- (39) 幼いものⅡかわいいものである、といえる。
- (40) 子どもは素直であるため、テレビの暴力シーンに影響を受けてしまい、事件を起こしてしまうことが多い。
- (41) 幼いものに対する私たちの先入観は、三十年前から変わっていない。
- (42) 子どもの世界とその感受性は、大人にとっては意味不明なところがある。

- (43) 子どもの多くは、「べとべと」や「どろどろ」が苦手である。
- (44) 大人は秩序的であるが、子どもは無秩序的である。
- (45) 大人の文化によく見られる秩序の転覆は、幼児性の中にもみとれる。

問8 次の□で囲んだ①～⑥の文を筋が通るように並べ替え、3番目と5番目に位置する文の番号を答えよ。

解答番号は3番目□46、5番目□47

留学生活に慣れ、英語にも自信が出てきたころに陥りやすいのが、「何でもはっきり言った方がよい」という思い込みである。

- ① 悲しいかな外国語として英語を勉強した日本人にはその辺のさじ加減がわからないようである。
  - ② そんな経験を重ね、また、自分の意見を言うことに慣れていなくて黙っている、友人や教授などから「あなたの意見は？」、「どうして意見を言わないの？」と責められたりしているうちにたどり着くのが、「はっきり言わないといけない！」という結論である。
  - ③ こんな落とし穴に落ちないためには、まず自分の英語力を過信しないこと、そして、人を傷つけないように努力することとはどの社会にあっても共通していることを忘れないことだろう。
  - ④ 確かに、アメリカ人は日本人が相手の気持ちを考えてはつきり言えなくて困るようなときに、あっさり「No」と言うことが多い。
  - ⑤ ということで、「ものすごくぶっきらぼうな、ひどく失礼な物言いをする人」になってしまっていることに気づかず、自分は英語が巧く話せると勝手に思い込むようになってしまっているのだ。
  - ⑥ ところが、アメリカ人でも当然のことながら人の誘いを断ったら、「また、今度誘ってね」と付け加えたりするし、趣味の合わない絵をもらったときなども「すごく新鮮な感じで素敵。どこに掛けるか考えるね」など、相手の気持ちを損ねないようにフォローするのが普通である。
- もちろん、どのような振る舞いが期待されているかはどこでも同じとは限らないということも忘れないようにしたいものだ。

(久米昭元・長谷川典子著『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション 誤解・失敗・すれ違い』から、

長谷川典子「アメリカ留学生活―「何でもはっきり」の落とし穴」、有斐閣選書)

